

25 MAR 1998



日米エアフォース友好協会

だ よ り

Japan America AF Goodwill Association

発行：日米エアフォース友好協会

〒107-0052 港区赤坂8-4-17

赤坂郵便局私書箱 62 号

編集：JAAGA 事務局

印刷：(財) 防衛弘済会

WELCOME TO MISAWA, YOKOTA AFB

— WORLD FINEST MILITARY COMMUNITY —

JAAGAの村木常務理事を団長とし、会員及び法人会員を含む一行（法人から13名、個人会員11名）が、去る2月に2日間にわたり三沢基地（35TFW・3空団）及び横田基地（5AF）を訪問した。この研修旅行で参加者が異口同音に述べたことは、北部航空方面隊や極東における米軍の役割を実感として理解するとともに両基地での暖かい歓迎に感動し、更にJAAGAに対する期待を身近に感じることができたというものであった。法人を代表して川崎重工業(株)航空宇宙営業本部深澤参事、個人会員として石川島播磨重工業(株)の高橋顧問に感想を寄せてもらった。

貴重な体験

深澤 敏明

航空自衛隊の輸送機に搭乗し、米空軍の宿舎に宿泊しての研修旅行は全て初めてであり、色々と貴重な体験を積むことができました。

北空司令官のお話、第5空軍司令官のブリーフィングをいただき、極東における米空軍の役割や北部方面の実情をよく理解できました。また各基地での司令官のお出迎え、ご案内をいただき大変恐縮致しました。三沢基地では米空軍及び航空自衛隊の高級幹部と親しく接するとともにF-16やF-1、E-2C等々の研修や基地内施設等の見学を行い、また横田基地ではC-17、C-9等の研修の他、第5空軍司令官主催のパーティ

三沢・横田研修所見

高橋 恆清

第1日（2月24日）はC-1で入間から三沢に向かい、山本3空団司令、ライト35FW司令に出迎えられる三沢基地に降り立った。当日は空自側、2日目に米側の研修を実施したが、24日の夜は日米主要幹部とのオフィサーズクラブでの夕食会、引き続いて基地外での懇親会が行われた。日頃から指揮官同志をはじめ、いろいろなレベルで日米の交流が行われ緊密良好な関係が保持されていることがうかがわれ

に招かれ交歓できたことはお互いの理解と友好の絆を更に深めることができました。

入間基地を出発の際、基地司令のご挨拶をいただいたのを皮切りに、至るところで日米エアフォースの方々から手厚いもてなしを受け、大変感激しています。

今回の研修でJAAGAの役割と我々に対する期待度を実感として感ずることができました。今後、新たな視点でJAAGAの活動を見てゆきたいと思っています。

企画された関係各位に深く感謝いたします。



Members at Misawa A/B

心強く感じた。

3空団は直前の週、8飛行隊のF-1からF-4EJ改への機種改編に伴う北空のORIを受け、見事「優秀」の評価を得、35FWもまた最近、指揮管理に関するPACAFの監察において「Excellent」の評価を受けたとのことで両部隊とも士気極めて旺

盛と見受けられた。

2日目の午後、C-1により横田へ移動、飛行場においてホール5AF司令官以下主要幹部の出迎えを受けた後、司令部においてブリーフィングを受け、続いてC-9、C-21、UH-1を見学したほか、たまたま米本土から飛来中のC-17を研修することができたのは望外の収穫であった。その後18時から1時間半にわたり、5AF司令官公邸において松村

副会長をはじめJAAGAの主要メンバーも加わった懇親会が設けられ、ホール司令官はじめ米軍主要幹部と親しく懇談する機会を与えられたことは大変有意義であった。

本研修の終始を通じ、米側のJAAGAとの繋がりを大事にしようとする熱意が強く感じられ嬉しく思うとともに我々もこれに十分応えよう今後とも努力しなければならないことを痛感した。



Dinner party at the O-club, Misawa A/B



F-16 in the hanger, Misawa A/B

未来志向の共有を 米空軍ベーシック・ドクトリンの変化を見て

JAAGA 理事長

米空軍が、名実共に世界最強の地位を維持し続けているのは、投入される資源の膨大さや、絶えることの無い実戦の経験を訓練・装備に反映させる努力を怠っていないことによるのは勿論であるが、より本質的な問題として、常に未来志向であり続けて来たことが大きいと思われる。

昨年(1997)9月に制定された米空軍ベーシック・ドクトリンは、さらにその傾向を鮮明にしたものと見ることができ、航空自衛隊が共同して備え、共同で戦う米空軍の将来の姿を推察し、航空自衛隊の今後を考える上で重要な示唆を与えていると思われるので、その一端を紹介することとした。

米空軍最初のベーシック・ドクトリンは、1953年に米空軍が航空兵力運用の最高の準拠を示すために、第2次世界大戦及び朝鮮戦争の経験に基づいて制定された。そもそもベーシック・ドクトリンは、航空宇宙兵力(「航空兵力」が「航空宇宙兵力」となったのは70年代初め)の適切な運用のための基本原則であるから、科学技術の進展によるウエポン・システムの変化や、国家安全保障政策、国際政治及び国家経済の変化等運用環境の変化並びに新たな戦いの経験によって改定される必然性がある。事実1997年版は11回目の制定であった。しかしながら同時にベーシック・ドクトリンは、まさに「基本原則」であるが故に、科学技術や戦略の重要な変化にも耐え得る普遍性を追求して来た。この変化への対応と普遍性の追求という二面性によって、ベーシック・ドクトリンが「過去との繋がりと、未来への橋を提供する」ものであると言われているのであろう。

昨年まで用いられて来た1992年版は、1984年版に代わるものであったが、湾岸戦争の教訓が纏まる頃には既に作成の最終段階にあったため、精密誘導兵器の戦略的効果を認める等、湾岸戦争の結果は部分的にしか採用されず、主眼は、平時任務の明確化や戦略核戦力の運用に関する記述の削除等、冷戦終結後の新情勢に対応するためのもので、従来に比してその作成姿勢に変化は見られなかった。

ところが、1997年版は全くその趣を異にしてしまった。即ち、米空軍の歴史の中で初めてベーシック・ドクトリンに

米空軍が将来持つべき質的能力が“Core Competencies”（中核的能力）として明らかにされたのである。

従来のベーシック・ドクトリンは、連綿として「航空宇宙部隊の特質／本領」と共に「戦いの原則」を、時代にマッチした内容で提示して来たが、将来を見通して米空軍が保有すべき質的能力を明らかにしたことはなかった。1997年版はその中で「“Core Competencies”は、それ自体ドクトリンではないが、ドクトリンの中核となる信条を運用思想へと具体化し始めており、空軍が果たすべき戦略的役割の中心に位置するものであって、これを語らずしてベーシック・ドクトリンの記述は完成されない（意識）」としている。

因みに“Core Competencies”は、米空軍が21世紀の空軍のための戦略ビジョンとして作り上げた“Global Engagement”の中核であり、次の6項目を指している。

- Air and Space Superiority • Global Attack • Rapid Global Mobility
- Precision Engagement • Information Superiority • Agile Combat Support

“Global Engagement”は、空軍戦略の全体的な方向付けであり、これから米空軍はこのビジョンを具体化して、行動可能、実行可能なものとして行かなければならない。

その方向が将来修正の余地が考えられないほど適切と判断され、米空軍にとって初めて経験するほど重大なチャレンジであり、空軍将兵がその意味するところを十二分に理解し、打って一丸となつての努力が求められているために、敢えてベーシック・ドクトリンに取り上げられたものと思われる。

つまり米空軍は、本気でやる気なのである。

15～20年先の航空自衛隊が、変貌した若しくは変貌しつつある米空軍と如何なる共同作戦を展開できるように今から備えて行くか、今我々にも未来志向の共有が強く求められていると言えよう。

横田基地で「Airlift Tatoo」 (エアリフト・タトゥー)

11月7日(金)米空軍横田基地において、基地司令、アラン・J・ブライディング大佐の主催により、空軍創立50周年を記念して「エアリフト・タトゥー」が盛大に行われた。「タトゥー」とは、約300年前の英国陸軍にその起源を持つ「軍の歴史と兵士の栄誉を称える伝統的な行事」であり、当日は、「空輸50周年“輝く翼…黄金の遺産…ゆるぎない未来”」と題して、米空軍の50年の歴史の回顧、第374輸送航空団の5人の戦没者の追悼及び21世紀に向けての米空軍の姿をそれぞれ象徴する美しく、感動的な演出と演奏が、フィリップ・ウェイト大尉指揮の米太平洋空軍バンドと進藤潤2佐指揮の航空自衛隊

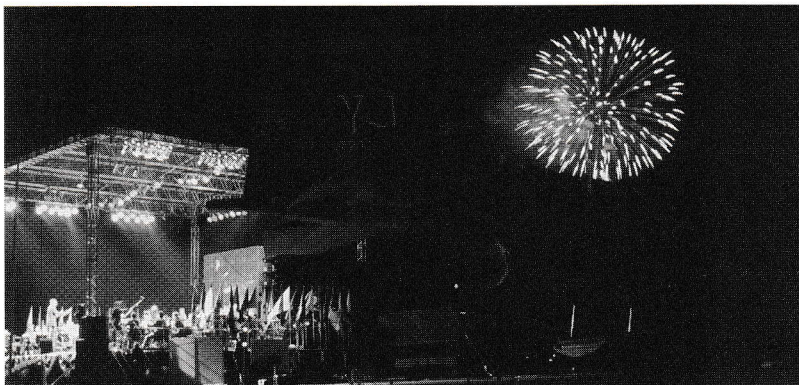
中央音楽隊及びジョーン・ハラデン中尉指揮の儀仗隊により基地所属輸送機による祝賀飛行と共に見事に行われた。基地の格納庫前の会場には第5空軍副司令官のラフォンテーヌ准将



Singing PACAF BAND man

以下の主要将校と多数の隊員が家族と共に参加、また、日本側からは多数の地元の人々、航空自衛隊間基地司令の越智空将補、府中基地司令の橋本1佐

以下の主要幹部、更に日米エア・フォース友好協会からは会長の鈴木元航空幕僚長、他数人の理事が、それぞれ家族を同伴して招待され、総勢約2千人の日米の仲間により、厳粛な行事と続いて行われた将校クラブにおけるレセプションでの和やかで楽しい雰囲気、日米友好のムードが盛り上がった素晴らしい一夜であった。



Fire work at Airlift Tatoo

福生・横田友好交流クラブ新春祝賀会 (Fussa-Yokota Goodwill Exchange Club)

去る1月28日(水)夕6時半から約2時間にわたり、米空軍横田基地内将校クラブで福生・横田友好交流クラブ主催による新春祝賀会が開催された。主催者側として同交流クラブ会長 山下光一氏(福生市商工会々長)、顧問の石川福生市長を筆頭に同会員約110名余、招待者として、米空軍側から同クラブの最高顧問である在日米軍(USFJ)司令官兼5空軍(5AF)司令官ホール中将及びUSFJ参謀長マレー海兵隊少将、5空軍副司令官ラフォテン准将と両司令部主要スタッフ、同クラブ名誉会長の374AW横田基地司令官ブライデング大佐及び基地主要スタッフ並びに福生市警察・消防関係者等がそれぞれ夫人同伴で参加した。防衛庁関係では、相沢東京防衛施設局長夫妻、空自現役側からは、越智入間基地司令、橋本府中基地司令、そしてJAAGAからは、松村、長谷川両副会長、石川(武)理事が出席し、総勢230名余を越える盛会となった。

祝賀会は、冒頭、尺八による日米国歌の吹奏に始まり、会長挨拶、来賓代表としてホール5AF司令官、ブライディング横田基地司令官、福生市長が挨拶後、主要招待者の紹介、鏡割り、乾杯等を終えて懇談に入り米空軍招待者を中心に、日頃、顔馴染みになっている主催者側と招待者間で、終始和やかな談笑が行われた。その間、併行し正面に設けられた小舞台では、純日本風に尺八の演奏、地元有志による子供達を交えたお神楽の展示、又、舞台袖右下では、基地憲兵隊勤務の日本人グループによる餅つきが招待者も参加して行われ、特に、米空軍ご夫人達には、餅特有の味わいも含めていろいろと興味を引いていた。

祝賀会の終了にあたり、山下会長を中心に、今後の同クラブの発展とより一層の緊密な連携と相互協



New Year Party at the O-club, Yokota A/B

力を誓い合うと共に、参加者全員の健康と活躍を相互に祈念しつつ、再会を約し合い、盛会裡に閉会となった。

なお、同交流クラブは、平成元年春頃、「現在の日本の繁栄は、日米安保条約を基調とした日米両国の親密な友好関係がその基本にあり、今後共、両国の友好関係をより発展拡張していく為に、米空軍横田基地を通して福生市民を主体として構成する本クラブの協力支援活動が、一つの架け橋となる様な努力をしよう。」との主旨により、石川福生市長、山下会長並びに稲垣専務理事等が中心となり、その意に賛同する福生市在住の事業主、商工店主及び各界の代表者等約200名で設立・構成され、協力主要事業として横田基地内大学生募集協力日米友好身体障害者運動会への資金援助を含む協力、支援、福生市年間行事(七夕祭、盆踊り等)に於ける招待、夏季米軍人子弟のホーム・ステイ支援等々、活発に交流・活躍している団体である。

JAAGA 主催の第1回ゴルフ大会

空自隊現役チームが優勝

去る 97. 10. 10. 特異日どおりの快晴のもと、JAAGA は、現役の在日米軍人及び航空自衛隊の幹部を招き、米軍多摩ゴルフ場で、第1回 SPORTEX として、ゴルフ大会を開催した。

大会は、チーム対抗と個人戦で争われ、航空自衛隊チームがチーム優勝した。

大会への参加者は、航空自衛隊から、平岡空幕副長、竹河内支援集団司令官、遠竹中空司令官、井上統幕学校長など 35 名、米軍からは、ホール在日米軍司令官、ラ・フォンティン 5 空軍副司令官、ライト三沢基地司令、ベーカー嘉手納基地司令など 35 名が、又、JAAGA からは、前会長の大村氏、現会長鈴木氏をはじめとして、参加を希望した者全員の 70 名が加わる総勢 140 名となる大規模な大会となった。

このため、午後のプレーとなる別のコンペに迷惑をかけないための配慮から、0645 集合 0715 スタートという、ハードなスケジュールとなったが、流石に遅れる者もなく、整々とした集合状況であった。

この参加者には、81 才というご高齢ながら、元気にプレーを楽しまれた会員の植村栄一氏もあり、ラウンド・パートナー達を驚かせていた。

プレーは、新ペリヤ方式でハンディを定め、18 ホールのラウンド中、1 度だけ打ち直しの権利を行使できるという、いわゆるマリガン方式のルールに

よって行われた。

又、スタートは、各ホールから一斉にスタートするショット・ガン方式により、0715 に開始され、

1210 に全パーティのプレーが終了した。

その後昼食しながら、スコアの集計を待ったがこれが、適度の懇親の時間を恵むことになり、SPORTEX の本旨を全うすることになっていた。

個人成績は、次のとおりであったが、米軍側にも好評をいただいた様子で、漏れ伺うところでは「来年も行われることになるであろうから…その配慮をと」首脳から担当スタッフにご指示があったとか…

これも、偏えにプレーもせず大会の運営にあたった、高橋（伸治）理事以下の幹事の努力の賜物であった。

順位賞

- 1位 城戸 明
- 2 田中伸昌
- 3 Maj ROSTVOLD
- 4 1佐佐々悦雄
- 5 1佐山元康

B. B賞 B/ Gen. La FOUNTAINE

ドラゴン

- Capt. TAYLOR
- 1佐佐々悦雄
- 1佐佐々悦雄
- 1佐飯田雅典

ベスグロ

- 1佐山元康 (79)

最年長賞

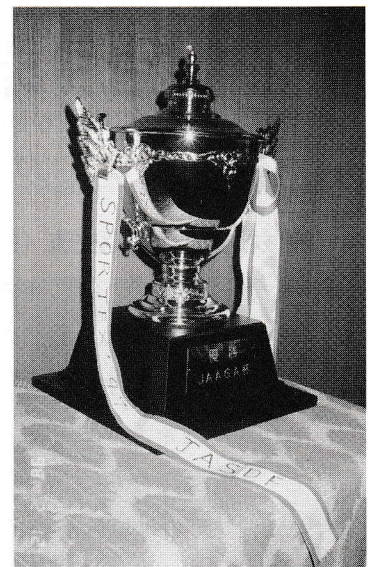
- 植村 英一 (81才)

ニアピン

- 鈴木喜一郎
- 城戸 明
- 将補 岡本 智博
- 立山 尚武

ドラ短賞

- Mr. VACTOR



1st prize trophy of the SPORTEX



Tama Hills Golf Course

在日米軍空軍基地のトピックス

横 田

地域社会との定期交流 (Fuji Flyer; Jan 8 より)

基地にとって、特に海外においては、地域社会との関係強化は重要である。

基地にいる者は、地域の人々と何らかの形で関連を持っている。現在の状況を維持するだけでなく発展させるために、このたび新たに「地域評議会」を設立した。

9人の地域のリーダーと横田基地の副司令官スコット大佐との間で最初の評議会が開催され、今後毎年3回実施される予定である。基地は全世界規模で活動する横田の任務実施状況を説明するとともに、基地の地域経済に与える影響等についても話し合い、理解と協力を更に深めていこうとしている。

大雪の中で基地交流 (Fuji Flyer; Jan 28 より)

横田基地は、敵ではなく自然の来襲を受け混乱した。1月8日から16日にかけて降った雪は25インチにも達し基地を交通麻痺に落とししめた。基地の90%の人員に対し自宅待機が命ぜられ任務付与がなされていった。

特に、LAX発の民間機MD11(乗客400人)が燃料不足で横田に着陸し一夜を過ごすことになり、乗員を含め450人のベッドを体育館等に設置したり、食事を作ったりしておおわらわであった。

嘉 手 納

少年少女の文化交流 (Shogun; Jan 16 より)

茶色のバッグにお肉の弁当を入れた嘉手納基地のボーイ・ガールスカウトが日本の少年少女達と文化交流のために集まり、持ちよったお弁当を興味深く分け合い様々なゲームをして楽しんだ。これは1月24日の初めての文化交流の様子である。9歳から13歳の子供達で、遊びを通じて自然にお互いの文化、習慣の違い、あるいは共通性を学び取っていくだろう。

2月にはアメリカの子供が基地の外へ冒険に行く予定である。土曜を予定しているが、日本の学校の休みは隔週のため、交流の機会が少ないとアメリカの子供たちは残念がっている。アメリカの子供が同年齢の日本の子供と会う機会が今では殆んどないため、願いがかなって喜んでいる。

三 沢

三沢基地での日米新年祝賀会 (Northern; Jan 28 より)

米空軍35戦闘航空団と航空自衛隊三沢基地の関係者が集まり、1月14日日米共同新年祝賀会が開催された。航空自衛隊の隊員が毛筆で書かれた詩を吟じ、米軍隊員が英語に通訳し披露した。詩の英訳は次の通りである。

The sunrise on New Year's Day shines beautifully as a celebration of coming new year for Japan, and the Star Spangled Banner of the United States Fluttering over the new year sky in the most beautiful view.

In greeting the new year of 1998 officials and populaces are celebrating a new year to deepen their spirit of friendship with a wish of peace and prosperity of the world.

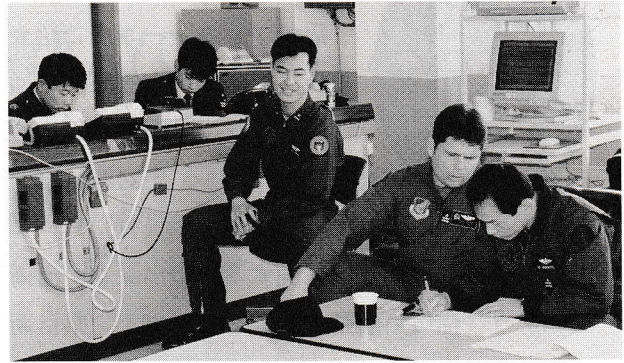
The shouts of echoes echoing throughout Misawa City.

コープノースを激励

昨年と同時期の1月18日から1月30日の間、西空を舞台にコープノースが行われた。

米空軍は新田原にF-15 8機、要員145名、築城にF-16 8機、要員115名、春日に要員30名を派遣。日米双方ともみり多い訓練の成果をあげたとの講評を得ていた。

J A A G Aは、これにあたり、新田原に江藤理事、築城に橋本会員、春日に中野会員を派遣し、金一封を送るとともに日米双方の隊員を激励した。



Briefing of the Cope North

KEEN EDGE '97

平成9年度日米共同統合演習(Keen Edge 97 指揮所演習)の終了を祝う懇親会が、2月20日府中基地において開催された。米側からは在日米軍司令官ホール中将以下、陸・空・海兵隊の将兵約100名、日本側からは武田航空総隊司令官以下統幕および陸・海・空の幕僚約150名が参加し、難民輸送等を含む総合的な作戦の苦労話に花を咲かせるなど、互いに親交をを深め合った。とき恰も米軍がイラク攻撃に

踏み切るかどうかの瀬戸際にあったため、米軍の一部の幕僚は懇親会への出席を取り止め、早々に本務へ復帰する姿も見られた。

J A A G Aからは、日米参加将兵を慰労するとともに日米共同の更なる緊密化を促す目的で、長谷川副会長がこの懇親会に出席して金一封を届け、全員の喝采を受けた。また両司令官から改めて謝意が述べられた。



Closing party at the Keen Edge '97

初の個人賛助会員（一般）に小笠原氏



去る6月の理事会において、全理事の賛同を得て小笠原氏が個人賛助会員（一般）の第1号として入会されました。やや時期を失ったきらいはありますが、小笠原氏のプロフィールをご紹介します。

氏名 小笠原 義通

生年月日 昭和2年11月10日

住所 〒243-0413 神奈川県海老名市国分寺台1-5-13

職業 (有) ヨコタレンタカー 取締役

小笠原氏は、防衛問題に関する造詣が深く、自衛隊の良き理解者であり、多忙な業務の日程を割かれて、次のような幅広い活動をしておられます。県自衛隊父兄会会長、県央日米協会理事、県自衛隊募集相談員。また同氏の娘婿は、航空自衛隊の救難団でパイロットとして活躍中であります。

小笠原氏に続いて個人賛助会員（一般）が多数入会されることを歓迎いたします。

JAAGA 会員の皆様へ

冷戦終結後の新たな国際情勢の中で「新ガイドライン」が策定され、まさに日米安保新時代を迎えて、JAAGAの活動は一層重要性を増しております。このときに当たり、航空自衛隊OBの存在意義を示すためにも、一人一人のささやかな奉仕の意志を集合し、航空自衛隊の将来の精強化と我が国防衛の基盤たる日米両エアフォースの相互理解に寄与して、現役諸君のご苦勞をしっかりと後ろ支えして行かねばなりません。また、一般社会に対して在日米空軍の重要性を啓蒙するためには、航空自衛隊OB以外の協力者を得ることも大切です。

発足2年目を迎えたJAAGAは、現在、その活動を一層活発化するために個人会員の会勢拡大を図っており、会員の皆様方の勧誘、推薦、情報提供に関する御協力、御支援を是非とも宜しく御願ひ致します。なお、個人会員については次の通りで、推薦若しくは情報提供を頂いた方には会員担当から連絡させていただきます。

正会員：航空自衛隊OBで入会した者（年会費5千円）

個人賛助会員：航空自衛隊OB以外の者で、正会員3名の推薦により、理事会の審査を経て入会した者（年会費1万円、当面は東京地区を主対象に募集し、遂次全国にその輪を広げていくことにしています。）

【連絡先】

「郵便」	〒107-0052 東京都港区赤坂8-4-17	赤坂郵便局私書箱第62号
	日米エアフォース友好協会	会員担当行
「FAX」	03-3780-2945 石母田	治（日本航空電子工業）
「電話」	03-3780-2961 同上	
	03-5323-5135 村木 裕 世（横河電機）	
	03-3456-7664 武智 哲 作（日本電気）	
	03-3245-6611 荒蒔 義 彦（新明和工業）	